

特 248

365

物資動員計画

企画院調査官 内山鑄之吉

40

45

1



\*0024047000\*

0024047-000

特 248-365

物資動員計画

内山鑄之吉・〔著〕

〔企画院第二部〕

〔昭和15〕

ADD

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月2日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。



特 248  
365

# 物資動員計畫

企畫院調査官 内山鑄之吉

## 一、序 論

唯今から物資動員計畫についてお話し申し上げたいと思ひます。物資動員計畫と申しますことは非常に物々しい名前がのいてゐますが、簡単に言ひますと物のやりくりで御座ゐます。近代の經濟は金だけで總べてのものが解決出来ないことは、諸君も今までの統制經濟の講義で大體御認識なされたと思ひますが、物といふものが近代經濟の重要な要素になつてゐるので御座ゐます。殊にわが國は支那に於いて非常に大きな戰爭を致してをります。

その戦線は三千五百ロキ以上に亘つてをりまして、それに要します費用は、唯今は百二十億圓、一般軍事費を加へると百七十億圓の金を使つてゐる譯で御座ゐます。わが國と致しましても未曾有の國を賭しての重大な戰爭をやつてゐるといふことを、先づ諸君がこの話をお聞きになる前に御認識願たひいと思ひます。

物資動員計畫





現在わが國が支那で行つてをります戦争の目的を達成致しまして所期の成果を納めるためには、戦争遂行に必要な軍需資材といふものを豊富に且つ迅速に供給しなければなりません。他面に於いて國內の施設をそれに對應しまして官民一體となりまして長期持久の戦時體制を確立し時局に對處しなければならぬのであります。これが爲當面の急務としまして物資の統制運用を最も有効適切ならしむることが必要なのであります。即ち輸出の振興、生産の増加、配給消費の統制に關する政策の徹底強化を圖るために、物動計畫が建てられて居るのであります。

## 二、十四年度「物資動員計畫」

現在行はれて居ります物資動員計畫は、十四年五月二十七日、發表されましたもので、その當時青木企畫院總裁の説明された處によりますと本計畫は根本の目標は、支那事變の目的を達成し、東亞新秩序の建設を行ひますと共に、國際新情勢に對處し國運の進展することにあります事は勿論であります。特に重點を生産力の擴充、貿易の振興、其の他の輸入力の増強、滿洲及支那の開發援助、一般民需の必要部門の確保、物資の配給の調整、消費の規正とに置いて居りますのが、特徴であります。

殊に生産力の擴充につきましては、相當巨量の資材をこの方面に割當てることに致し、然も其の額は計畫實行

上から見まして必要最少限度のものでありますから資材の使用については最少の資材を以て最大の効果を上げる様に特別工夫を致します點を明示致しました。これは非常に意味のあることでこれによりまして物資動員計畫が生産力擴充計畫と一體不可分なものであることが明確に知ることが出来るのであります。

次に、貿易の振興其の他輸入力の増強に重點を置きました點であります。輸出貿易の伸展をはかります上に於きまして、輸出品用原材料の優先確保に努めますと共に、勞力及び資金の確保其の他の凡ゆる施設を講じまして輸出産業の振興を圖ることに致してあります。此が爲に或種の物資につきましては極力國內消費を抑制致しまして輸出に向ける等積極的輸出振興に邁進することに致しました。

又滿洲支那の開發援助に就いてであります。事變處理の目的より致しまして滿洲支那に於ける治安を維持致しまして、資源を開發致しますことは極めて肝要でありますのみならず、我國の生産力の擴充とも密接な關係がありますので十四年度物資動員計畫には滿支に對する資材の確保に努力が拂はれて居るのであります。

以上の三點は十四年度物動計畫の特に重要な特徴であります。

## 三、動員物資の範圍

昭和十四年度物資動員計畫の範圍はどういふ物資によるかと申しますと、物資動員計畫の中に計畫されてゐま



す物資の種類は頗る廣汎に亘りまして、その主なるものを取りますと次の如きものでありますと思ひます。

普通鋼の鋼材、鉄鐵、特殊鋼の鋼材、合金鐵ならびにこれらに必要な原材料たる各種の鑛石類ニツケル、白金、銅、鉛、錫、亞鉛、アンチモン、水銀、アルミニウム、マグネシウム、石棉、雲母、銀鋼用鑛物ならびに各種の原鑛石、棉花、羊毛、パルプ、麻、皮革、ゴム、木材の被服建築用品、石炭、コークスならびに原油その他各種の石油およびその代用燃料等の燃料類、鹽、ベンゾール、トルオール、石炭酸、硝酸、硫酸、アルコール、硫酸アンモニア、加里等の肥料その他の化學製品ならびに醫藥品、機械類、米、麥、甘蔗、魚類、牛鳥肉、水産物等の食料および飼料、その他各種の輸入雜品類であります。

これら物資の品目は約二百五十種に達してゐるのであります。勿論今日の軍需品乃至民需の物資は斯くの如く限定されたものではありません。最も重要と認められた資材、而かも輸出商品の原料にして且つ主として輸入の對象として考へられてゐるものを選びまして、これが需給調節を爲ることを目的と致しました。又これによりましてその製品たる各種物資の需給調節を期することにもなつてをります。

#### 四、需要關係

次に物資動員計畫の根本の基礎であります需給關係について申し上げます。物の調整といふことは物の需給調節

を爲ることです。物資動員計畫は物の需要供給を幾つかの部門に分ちまして合理的に確實なる需給調整が有機的に實行し得る様決定致されてをります。言換へますれば軍事上は勿論生産力擴充、輸出の振興、滿洲支那の開発、國民生活の維持等のために、最も重要と認められる戰時物資の需要量の輕重、緩急を慎重に検討致しまして、限りある物資を最も有効に國家的見地から使用する様に適當に振當て、需要量と供給量の區分調整を致してをるのであります。需要の關係では陸海軍の軍需、生産力擴充の資材、官廳需要、輸出用原料の需要、滿洲支那開發用の需要、民間需要に六區分されてをります。この六つの區分が需要の關係で考へられた爲めに、供給關係は國內の生産の確保、圓ブロック——これは滿洲支那であります——よりの輸入の確保、物資の回收、市場および工場の在庫品、ストックの利用、第三國よりの輸入の五區分に分れて居ります。

次にこれらの各項目について簡単に御説明申し上げたいと思ひます。陸海軍の需要につきましてはその内容を精しく申上げるとは勿論出來ないのであります。一言申上げてをきたいのは陸海軍需要といふのは現在當面致してをります支那事變處理だけではないといふことであります。それは陸軍も海軍も常に他の有力なる第三國の侵攻を受ける様な重大な時局に當面しても、何ら不安を感じることはない程度の國防力を持つてゐなければならぬのであります。近代の兵器が非常に進歩致してをりますことは軍需の増す一因となつてをります。然し軍需は理想を申せば限りがないのであります。わが國の陸海軍は常に國力に應じまして、又第三國の兵力に應じまして常に最少限度の國防安全感を維持するに努めてゐるのであります。



次は生産力擴充用の需要であります。物資動員の需要額の中には生産力擴充のための額であります。物の將來に亘る生産力を擴充する目的のためにはいろ／＼の計畫および施設が増えなければ、物といふものは永久に獲得することが出来ないであります。昭和十三年十二月二十六日の企画審議會に於きましては昭和十三年から昭和十六年に亘ります生産力を擴充する改訂四ヶ年計畫といふものを可決致しまして、翌二十七日の閣議を經まして正式決定となりました。これは昭和十六年度をもつてその計畫目標を達成する豫定であります。十四年度はその第二年度に當つてゐます。政府に於きましては、この改訂四ヶ年計畫を正式に決定致しまするやその計畫要項を發表致しまして計畫の根本方針を明らかに致しました。生産力擴充計畫、即ちわが國の重要物資の生産力を増大せしめんと致します計畫の根本方針は主として矢張り國防上の觀點から、一朝事ある時のため主要なる物資の原料材料を自給自足出来る様にして行かうといふのであります。國防力の經濟的部門すなはち軍用物資の充實を主眼と致しますと同時に、申すまでもなく國民の消費生活上重要物資の充足につきましても考慮を拂ひまして、即ち重點主義によりまして特に重要産業についてのみ急激に擴充する計畫を樹立するものであります。明治以來七十年の間に急激に進歩致しましたわが國の産業は今や輕工業から重工業中心に飛躍せんとしてゐる時代であります。然し現在の状態に於いてその重工業の内容を考へてみますと原料の取得から生産までの過程の主要な部分に於いて何處か必ず外國に依存してゐるところがあるのであります。譬へて申しますと鐵の例をとつてみませう。最後の過程で御座ります鋼鐵を延ばしたりする工場は相當あるのであります。現在日本の狀況からみて必ずし

も不足してゐないのであります。然し原料であるところの鐵鑛石、屑鐵といふものは相當部分を外國から買つてゐる次第で御座ります。實際に於きましては或る分量の此等を輸入しなければならぬと云ふことは決して完全な國防産業とは言へないので御座ります。

次にアルミニウムの例をとつてみますと、最近に於きましては航空機の工場が各地方に出來まして、國産航空機は支那の戦線に於きましては又北滿國境に於きましても盛んに活躍して壓倒的勝利を得てゐるのであります。わが國産機の見事なる働きは勿論勇敢なる荒鷲勇士の技倆と訓練とが優れてゐるからでありますけれども、最近わが國の航空機工業の發達は航空機そのものをも世界の水準に劣らない立派なものとしたのであります。民間の飛行機では嘗つて歐亞連絡飛行の記録を作りました大阪朝日の神風や、現在世界一周を行つてをります大阪毎日のニッポン號はいづれも國産機であります。飛行機を作る工場に於きましても中島飛行機製作所とか三菱重工業とかの設備は世界に誇るべきものであります。然しその飛行機の製作原料であるアルミニウムについて考へてみますと、わが國のアルミニウムの技術は今日のところ決して充分ではないのであります。又アルミニウムを日本でも相當冶金で作つてゐますが、然しその原料たるところのボーキサイトといふものは日本には出來ないのであります。これ、外國から買つてゐるのであります。然し將來に於きましては技術が進歩致しまして日本でもアルミナ即ち酸化アルミニウムを含んだ粘土が澤山あるのでありますからそれからどん／＼出來なければならぬが、過去に於きましては技術的にやり易いところのボーキサイトを外國から買つて製造してゐる狀況でありま



した。然しボーキサイトを買ふより本物のアルミニウムを買ふ方が早くてやり易いのでさういふことをやつてゐる状態でした。どうしてもかういふ風にやり易い方に走るといふことが平時の経済的な考へ方でありまして、一朝事があつて外國からさういふ原料がなくなつた時に役立つ様に日本のアルミニウム工業をしなければならぬ。かういふことでは一朝有事の際眞に國防工業を完うすることは出来ませんので、わが國ではアルミニウム等の増産計畫をしてゐるので御座ります。

考へてみますと、我國の重要物資で現在日本で本當に自給が出来るのは石炭位のものであります。この石炭も十四年の様に夏の早魃で電力が足りなくなりまして、その間に冬使ふ分まで使つてしまふと冬になつてから非常に困るといふことが起つてきます。又石油の様なものも殆んど外國に依存してゐます。それからもう一つ、之は現在では大分やかましい問題になつてゐるが、兎に角も日本で自給出来るのは米その他の食料品で、これは國內でスツカリ出来ますのでこれが日本の非常な特徴であります。外國に於いては戦争が起ると直ぐ食糧問題が喧ましくなつて、歐洲に於いてはフランス、英國、獨逸共に食糧の制限といふことを非常に考慮してゐるのであります。わが國は幸ひにも恵まれてをり、今日戦争が第三年目に這入つてゐますが食糧問題については今迄の處心配がないのであります。これだけは恵まれてをります。

唯今申しました様に重要な物資が悉く外國に依存してゐる状態では將來に於いて完全なる國防力を強化することが出来ませんので物資動員計畫ではこの物の一部を割きまして重要な原料に充ててゐるのであります。これ

が唯今言ひました生産力擴充計畫でありまして、生産力擴充の物品は十五品目に分かれてゐます。

簡單に言ひますと第一に鐵鋼——普通鋼、特殊鋼、鍛鑄鋼——鋼塊、銑鐵、鐵鑛石。第二が石炭、第三が輕金屬——アルミニウム、マグネシウム。第四が非鐵金屬——銅、鉛、亜鉛、錫、ニッケル。第五が石油およびその代用品——自動車用揮發油、重油、航空潤滑油、無水アルコール。第六が曹達および工業鹽——曹達灰、苛性曹達、工業鹽——第七が硫酸アンモニア。第八がバルブ。第九が金。第十が工作機械。第十一が鐵道車輛。第十二が船舶。第十三自動車。第十四羊毛。第十五電力——以上申しました十五の品目を昭和十六年までにかなりの程度に自給出来る様増産する計畫をしてゐます。

次に物資需要のうち官廳需要額について説明致します。官廳で使ひます物資の需要額といふものは國の豫算と最も關係が深いので、今日の豫算は金額のみによつては定められないのでありまして、物資との關係を充分調査して定められてゐるものであります。今日の各官廳の豫算は事變下の状態に於きまして不要不急の物を出来るだけ削減致しまして、現在の情勢に即してやむを得ないものばかりを認めてゐるのであります。現在に於きしては軍需々要、生産力擴充需要に押されて官廳の需要は相當程度に削減されてをります。官廳の需要で最も澤山の物資を要するのは現業官廳の逓信省（通信に使ふ）鐵道省（交通機關に使ふ）朝鮮總督府（これは通信交通を總督府で自營してをります）で、鐵道省、總督府の要求してゐる鐵道車輛は前に申しました生産力擴充の品目に這入つてゐるので御座ります。斯の如き輸送機關は充分に準備しなければ物資の生産力擴充に支障をきたすので特



別の考慮が拂はれてをります。この官廳の要求額をどの程度に定めるかといふことは物價問題にも非常な影響があるであります。勿論豫算との關係の調和が破れますと悪性インフレーションといふ恐ろしい經濟的破綻が参りますので、現在では各省の豫算を企畫院に於いて一應目を通して物資の關係よりして適當な意見を附けて、大藏省の査定の参考にしてゐる次第で御座ります。

次には滿洲支那の産業開發に要する需要で御座ります。これは所謂圓ブロックの需要額と申してゐます。わが國が大陸を開發し大陸から物を持つてくるためにはこちらから資材を持つて行かなければならぬので御座ります。滿洲に於きましては既に生産力擴充計畫を行つてゐまして、昭和十六年に完成することだらうと思ひますが、之に要します主要物資は日本から供給することによつて滿洲の生産力擴充計畫が完成するので御座ります。勿論そのうちの一部は滿洲自身の爲替をもつて外國から買ふことも出来ませう。又一部は滿洲國自身で生産してゐますが、その大部分は日本に物資の供給を仰いでをります。滿洲國はわが國と最も密接な關係がある國ですから、出来るだけ多くの物資を供給しなければならぬのですが、現在のところでは滿洲の要求を百パーセントに供給するわけにはいかないであります。これは相當要求よりも壓縮されるものと見込んでをります。然し現在滿洲國に於きましては日本から供給します非常に少い物資をもちまして積極的に生産力擴充をやつてをります。その成績にはみるべきものが御座ります。私共は非常に心強く感じてゐる次第であります。

次に支那ですが、支那は産業開發といふ様なことは十四年から漸く行はれまして、現在の事情では支那から急速に物を持つてくることはなか／＼望めないであります。然し支那の開發といふことは今後の重大な目標でもありますので、將來に於きましては支那を開發する爲にこちらから資材をどんどんやらなければならぬと思ひます。

次に輸出材料の需要額であります。わが國の重要物資の大部分は先程申しました様に第三國から輸入する關係上その輸入資金たるべき外貨を獲得するために、輸出を振興しなければならぬことは勿論であります。例へば輸出振興のため果物であるとかバターなどを外國に送つて、屑鐵など日本に重要なものをつとくるのであります。ところが果物罐詰の註文が外國からきたが、罐の配給がないとか、荷物を作る材木がない、釘がないといふことを聞くのであります。さういふことがありましたならば非常に大變なことであります。政府と致しましても出来るだけさういふことのない様この方面に對しては優先的に物資を配給致してゐるのであります。唯今申しました様に釘がないとか罐がないといふことは地理的、一時的の不圓滑でありまして、輸出するものであれば政府は何を措いても物資の配給を致してをります。物によりましてリンク制といふものがありまして、或る物資を輸出すれば外國から幾らでも輸入出来る様になつて居るものもあります。

次に一般民需についてお話し申上げます。前に申しました通り陸海軍の需要、生産力擴充の需要、官廳用の需要、滿支産業開發の需要、輸出用の材料はどれも重要なものであります。民間生活必需品の需要と言ふことも重要であります。戦時下の國家に於いて多少の不便は強力な國家を作るために現在のところやむを得ないといふ



るであります。國民生活を確歩しますことは勿論必要なことでありますのでいろ／＼の點で考慮が拂はれて居ります。中でも國民の食糧に關係あります農業生産に必要な肥料であるとか農機具であるとか醫藥品の如きは國民保健上絶対必要なものについては優先的に供給する様に致してをります。そのほかに海外に於きまして邦人の企業のために輸入を要するもの例へばブラジルに於いて日本移民がコーヒーを作つてゐる時そのコーヒーを日本で買はなければ日本移民の企業といふのが困つてしまふのであります。さういふものは特別の關係で需要を認め居ります。それからバーターシステムの貿易によりまして輸入を要するものはその點考慮を拂つてをります。以上の六項目が需要の關係であります。

## 五、供給關係

次に供給關係の計畫につきまして申し上げます。物資は需要の方面で前述の如く統制致しまして、之に對應致します供給の方面では次の五項目に分つて統制致してをります。先づ第一に前に申しました國內の生産を確保することであり。それは國內の生産を充分見極めましてその生産の豫定額を定め、その生産量を確保するために格段の努力を拂ふことが必要であります。前に述べました生産力擴充はこれであり。國防上自給をはからなければならぬものについては特に考慮を拂つてをります。このため國內の生産を確保するためには種々の計畫

が出来てゐます。即ち勞務計畫、資金計畫はこれらの供給を確保するために行はれてゐるので御座ります。

次は滿洲、支那からの物資で御座ります。國外からの供給と致しましては支那、滿洲からの物資の供給が考へられてゐるのであります。これらの地域から相當輸入を計畫してをります。例へば滿洲から物を持つてくるとか關東州、北支から或ひは中支、南支から持つてくるといふ様な種々の計畫があります。便利なことには圓ブロックからの輸入は外貨を要しないのであります。然し一面に於きましては現地の資源を開發するために資材、資金、技術等の大部分はわが國から持つていかなければなりません。その範圍内に於いて國內の生産額を確保すると同様な努力を要する次第であります。殊に支那は治安がまだ確保されてをりません。區域もありますので、物資の獲得には努力を要する部分があるのであります。又支那、滿洲については輸送機關問題といふことが非常に考慮されてをり、山西の石炭にしても天津の海岸まで汽車で持つてきて塘古から船に積んで日本に持つてくるその輸送経路につきましても、將來相當の設備を要するものがあります。是等は目下着々と計畫が實施されつゝあります。

次は物資の回收で御座ります。物資の回收といふことは物資動員計畫の重要な一部分であります。鐵屑の如きも捨ててをけば錆びてしまふが、鐵屑を回收することは資源の愛護になり、これは外國から澤山輸入してをりますので輸入資金の節約にもなります。この物資回收の對象物は澤山あるので御座ります。手近の例は簞笥の中に使はないでしまつてある洋服は羊毛の再生原料になります。ボロは紙の原料として重要なものであります。こ



の様なものを出来るだけ回収致しまして供給を少しでも確保しなければならないのであります。

次には市場在庫品の利用であります。市場或ひは工場在庫品の現在高を知りまして、それからどれだけの物資を供給出来るかを計畫することが物資動員計畫の重要な内容になつてゐます。今日では製作停止を命ぜられたり、輸入を止められて居ります或る種の物資については、民間需要は全く市場在庫品だけで供給してゐるものが澤山あるのであります。所謂物資動員計畫を樹てる上に於いては重要な物資の在庫品を厳密に調べる必要があるのであります。

次に第三國からの輸入で御座ります。勿論物資動員計畫の中の供給部門の中で國內生産および圓ブロックよりの輸入物資はその重要部門であります。それだけでは國內物資の需要を全部賄ふことは出来ないものであります。海外の第三國から輸入することが是非とも必要となる譯であります。然し第三國の輸入には外貨を要する譯で御座ります。簡單に必要なだけの物資を購入するといふ譯にはいかないものであります。これには一應貿易計畫を定めまして不急不要の物資の輸入を禁止或ひは制限すると同時に、一方輸出の振興を計畫致しまして輸出入の均衡を図ることが必要なのであります。十四年度度に於て別に貿易計畫と稱するものを樹てまして、それによつて物資動員を助けることに致してをります。

新しい貿易計畫といふものは先づ第一に輸出の可能額を調べるのであります。次に貿易外の受取勘定額、産金額、金銀回収額等を全部合計致しましてそれによつて輸入額を定めるのであります。現在のわが國にどれだけの

輸入力があるかといふことは此處で發表する自由は持ちませんが、過去の実績から輸出の可能額といふものは昭和十三年の輸出總額は二十六億八千九百萬圓、そのうち第三國輸出は十五億二千五百萬圓、圓ブロック輸出が一億六千五百萬圓で御座ります。歐洲情勢の變化によりましてわが國の輸出は非常に増大して參つて居ります。輸出が振興致しますことはそれだけ外國よりの物資の獲得の助けになるのであります。貿易外の受取勘定としては、保険料とか、備船料とか、或は觀光客が來て日本へ落す金その他の勘定ですが、これも外貨獲得の一要素であります。次に産金額は昭和十一年の日本産金は四萬二千キログラム、その金額一億五千八百萬圓で世界産金額の三、四パーセント位になつてゐます。そのうち政府は極力増産計畫を致してゐるのでこれはもつと増へてゐるものと思ひます。最近の産金額は一寸發表出来ないことになつてゐますので申上げかねます。次に金銀回収額は回収方法の改善によりまして先年よりも非常に増してゐるのであります。

輸出に於きましては最近の歐洲情勢の變化に伴ひまして積極的に増加してゐますので今後の發展は大いに期待出来ると思ひますが、一面の障害となることは歐洲情勢の變化によりまして各國に軍需工業が盛んになりまして我國に必要な重要物資が獲得出来にくくなる虞も考へられるのであります。

## 六、物資動員計畫の法律關係



物資動員計畫にはその實施上の政策として物資の消費規正に關しその強化徹底を期する方策が行はれてゐます。總動員計畫を實施するに當つては原則として國家總動員法の規定を發動することになつて居るのであります。然し國家總動員法に基く勅令は未だ全部の整備を見て居らないので取敢へず昭和十二年九月の第七十二帝國議會を通過しました御承知の輸出入品等に關する臨時措置法によりまして總べてを賄つてをる部分が相當あります。臨時措置法は昭和十二年九月十日に公布、同時に施行され、十三年の五月二十四日に一部が改正されました。現在の法律によりまして百に近い省令が出てゐます。重要原料およびその製品の製造禁止又は制限を致しまして、又特定の用途の使用消費等を禁止又は制限し、又は配給や譲渡を制限致してをります。この法律で強制的に消費を止める途は講じてをりまして、先程申しました重要な原材料につきましてはいろいろ切符制等を行つて消費が規正されてゐる譯であります。

それから消費の規正といふことは配給統制團體の自治的統制作用に移して行つてゐるものが相當にあります。が大體に於きまして原料の輸入を要するものが統制を受けてゐると申して差支へありません。然し十四年度の如きは輸入原料による製品の製造を禁止するばかりでなく、國內で生産するものの消費を或る程度止めまして外國に輸出するといふことが考へられるのであります。その他の對策としましてはインフレーションを防止するため貯蓄の奨励とか公債政策、或ひは租税を増すことによつて購買力を吸収しまして、インフレーションを防止するに努めてゐます。又資金調整と相俟ちまして物資の調整を有機的に資金調整に聯關させて購買力を適當に配分

致しまして、適當な方策を考慮致してをります。

## 七、結 語

物資動員計畫をだん／＼やつて行きますと、國民の消費生活の水準といふものは一時的に非常に低下するものではないかと思はれてをりますが、これがため政府も民間も非常な覺悟と適切なる處置を要するものと思ひます。そのため配給機構の運用整備によりまして物資の配給を調節することが考へられますが、十四年度の物動計畫では前に申しました様に軍需以外の需要を細まかく分けまして、物の需要に對して配給策を定め、出来るだけ配給の確保を図ることに致してをります。配給を圓滿にするには配給機構を整備しなければなりません。政府もこれに就いては萬全の策を取つて居るのであります。配給機構に關しては從來各種の統制組合、統制會社、同業會需給調整協議會等民間の當業者團體の自治統制を利用致しますと共に鐵、銅、錫、鉛、綿製品、皮革、ゴム、米、松、石炭、揮發油、重油、肥料、飼料等の物資についてはそれ／＼配給統制法規に基く切符制度によりまして配給統制を圖りつゝあるのであります。今後とも物動計畫の遂行に當りましては必要に應じまして配給機關を増設したり整理したり、又配給統制法規を強化するなどして一段と配給機構ならびにその運用を強化しなければならぬのではないかと考へます。



以上述べました物資動員計畫といふものは一言致しますれば物資の需要と供給を調節することでありまして國防上絶對に必要なものでありますが故に我々國民は此の一時の困難を克服して東亞新秩序建設の永久目標に向つて邁進致さねばならぬと思ひます。

物資動員計畫は以上大體述べました通りで御座りますが、これがどの位の程度の目標で行はれて居るかといふ系數が述べられると好いのですが、これは禁止されてゐますので御判り難い點もあつたと存じますが、物資動員計畫についての御話はこれで終りと致します。





企畫院第二部